

第6次二宮町総合計画策定に伴う町民ワークショップ実施状況

1. 目的

第6次二宮町総合計画に町民の多様な意見・提案を適切に反映するため、意見交換を通じて、町民とともに、町が抱えている課題の抽出・整理、及び解決方法、及び将来を見据えた持続可能なまちづくりにつながる町の将来像を検討する。併せて、まちづくりに対する町民等の理解の促進と機運の醸成を図る。

2. 開催日時及びテーマ

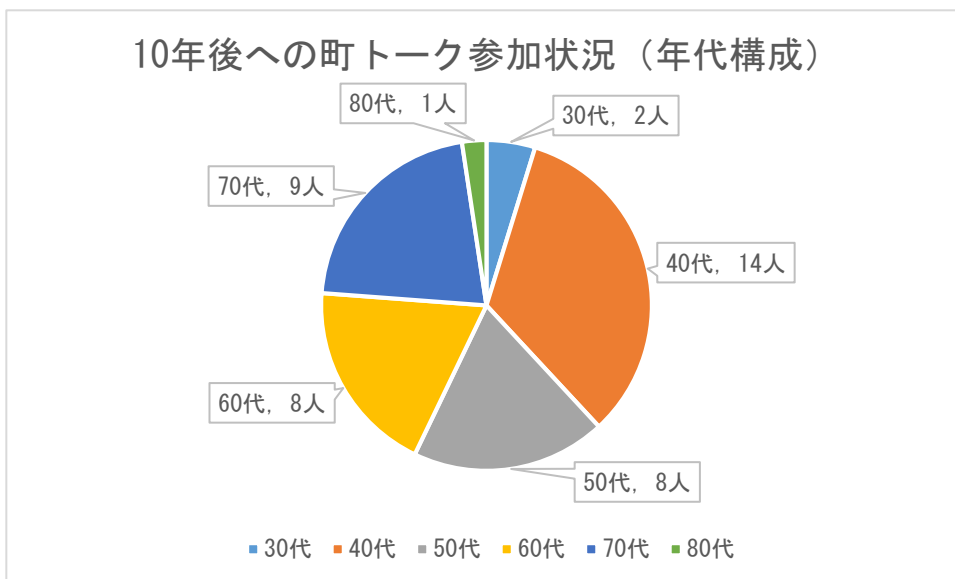
- 令和3年10月9日（土） 「子育て、教育」「産業・経済」
 10月24日（日） 「環境、防災」「土地利用・都市基盤」「自治体経営」
 11月13日（土） 「福祉・健康・保健」「生涯学習・スポーツ、歴史・文化」

3. 参加者状況

(人)

実施日	出席者	意見のみ	合計
10月9日（土）	10	6	42
10月24日（日）	6	2	
11月13日（土）	5	13	

※ 意見のみ：当日都合により出席できないため意見のみ提出いただいた方



4. 意見交換結果

別紙のとおり

～第6次二宮町総合計画策定に向けて～

10年後への町トーク（ワークショップ）

二宮町の「現在」と「未来」を考える

【第1回記録】

日時：令和3年10月9日（土）14:00～16:15

テーマ：【子育て・教育】【産業・経済】

《テーマ》 子育て・教育

【課題①】 子どもを産み、育てたいと思えるまちづくりのために

→少子化とそれに伴う人口の減少は、町の未来に大きな影響を及ぼす重要な問題です。この町で子どもを産み、育てたいと思えるまちづくりを進めていくために、どのような取組みが必要でしょうか。

【課題②】 子どもたちの心身の健康と「生きる力」を育むために

→町内小中学校における児童・生徒数は年々減少しています。そのような中、子どもたち一人ひとりが、個性を伸ばす質の高い教育を受けることができるよう、町では特色ある学校教育の推進に取り組んでいます。今後、子どもたちの心身の健康や「生きる力」を育てていくために、どのような取組みが必要でしょうか。

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
財政面での支援	◎安心と希望の持てる安定した子育て環境のための財政的支援の充実。(医療、出産、育児サポートなど) ○子育てに関する金銭面での支援。 ・医療はすでに無料化されている。 ・出産に関する費用の無料化、出産育児一時金の前払い ・幼稚園、保育園の無料化、小・中学校の給食無料化 など
子育てにお金がかからない仕組み	○妊娠時から18歳になるまで、食費、教育費、医療費がかからない仕組みづくり。(ex. 町独自のこども保険) ○町内レストランでの食事の無料化。
安心して子育てができる環境・施設づくり	◎多様なニーズに対応できる、町民に寄り添った町づくり。 ◎「安心」と「希望」の持てる町。(医療・育児、託児所・学童) ○子連れで働ける職場環境を町のスタンダードに。 ◎「子育て110番」の開設。 ◎子育て事情のニーズ変化を捉え、多様な情報ツールを活用して、対話の機会を増やすなど、情報を取りに行きづらい人への情報提供方法を工夫する。 ○妊娠中から頼れるパートナーの存在。(相談したいときに相談できる) ○子どもが産める病院。(助産師、小児科、夜間対応) ◎安定した子育て環境づくり(託児所、学童など) ○子どもが自由に遊べる家が町中に点在。(自宅から10分以内、遊びにお金がかからない。) ○ラディアン周辺(またはラディアン内)にカフェ等、ゆっくり過ごせる場所を。 ◎自然の中で遊べる場をもっと増やす。 ○土日祝日や雨天時も利用できる屋内型公園(遊具施設)を。(ex. 小田原市のマロニエ、平塚市の公民館など) →共働きの子育て世代は急増しており、子どもたちの体力増進やストレス発散の場が必要。予約制の町立体育館は幼児や小学生利用は困難。 →温暖化の影響で、雨天が増加、熱中症が心配される気温など、外で遊べる日が少なくなっている。 →これらの施設は、自然災害時の避難所としても利用可能。
特色ある子育て・教育環境のPR	◎子育て世代に注目される情報サイト「にのみやLIFE」を活用し、町の生活におけるメリット(空き家情報など)をわかりやすく発信する。(→現在の「町を知る」リンクのサイトは親切でない。)

	<ul style="list-style-type: none"> ◎町の魅力を掘り起こすとともに、これらの魅力の見える化に努める。そのためには、町民が町に誇りと愛着を持つことが大切である。 ◎全ての子育て世代が手軽に情報提供できる仕組みをつくとともに、情報技術を活用し、町が簡単に分析できるようにすることから始める。 ◎色々な「ところ」に、色々な「まなびの場」がある。子育てにふさわしい自然環境を保全し、活用する。 ◎これまでにない新しい多様な教育の形。学校の再編。 ◎海あり、山ありの自然の中で子育てできる良好な環境をこれまで以上にアピールする。 ◎海あり、山ありの環境にある二宮町の特徴を活かし、自然の豊かさを子育て・教育を通して意識できると良い。 ◎野山や海で遊ぶ機会を大切にする。 ◎農業体験を通した学びの場。
交通・安全面での配慮	<ul style="list-style-type: none"> ◎駅周辺の商店街を通行するバスや自動車、自転車に対する交通安全の確保。(→北口商店街は道路が狭い中、大型バスや自家用車が頻繁に通行するため、歩行者の通行が困難。時間帯によっては、高校生の自転車通行も多い。) ◎歩行者(バギー、高齢者含む)の通行しやすい町づくり。
時代にあった教育	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもたちの個性を生かす教育が大切。新しい共育。 ◎教科書を捨てる。「生きる力」とは、子どもの学ぶ力を伸ばす。多様な学び。 ◎「生きる力」とは、自分で考えて行動する力。 ◎課題を成就できる成育環境を保持することが必要。 ◎ビジョンをもった教育とそのため対話を重ねること。 ◎拙速な GIGA スクール化をしない。 ◎現代の子どもたちの体力低下が課題。(→「水泳」の授業時間の減少、ゲームなど室内での遊びが中心) ◎オンライン授業に対応できる力をつけながら、義務教育で学ぶ内容の一步先を学べると、好奇心から学習意欲の向上が図れるのではないかと。(ex. 英会話、プログラミング、ディベート(討論)・ディスカッション(議論)、性教育、DIY、家事、農業講座など)
価値観のギャップ	<ul style="list-style-type: none"> ◎高校で他地域に出た際、考え方にカルチャーショックを受けていた。小・中学校で自主的に活動していたことが受け入れられなかったらしい。 ◎これからの子どもたちはあらゆる多様化の中を生きていく必要があり、その中で自己肯定できる子どもになるよう、生きる力が必要だと思う。インクルーシブ教育の推進、障がいがある子、色々問題を抱える子と一緒に育つ等により、多様な価値観を持つ子どもになれるのではないかと。
既存施設の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ◎県内図書館の連携。 ◎交流のための空き教室の活用。(子ども、高齢者、多様な世代の交流) ◎参画・体験しやすい学習環境(学び場づくり)の構築。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ◎コロナ禍前後で価値観が変化している。テレワークが進み、通勤が必要でなくなると、都会ではなく、程良い近郊都市に住みたいと思う人は多いのではないかと。 ◎それ以前に、今の若い人は「結婚したい」「結婚して子どもを産みたい」と思っているのだろうか。

《テーマ》 産業・経済

【課題①】 多様な消費者ニーズに応えられる地域経済の活性化のために

→本町は、町外への通勤・通学者が多く、居住者のうち町内での従業率は2割程度で、町内における就業の場が少ないことがうかがえます。駅周辺の商店街も活気が衰退するなか、にぎわいある商業振興をはじめとする地域経済の活性化には、どのような取組みや考え方が必要でしょうか。

【課題②】 自然豊かな町の特徴である農地や里山を守るために

→本町は、東京近郊でありながら農漁村の風景が残り、自然が豊かであることを魅力としています。また、特産品である柑橘類やオリーブなどの栽培に力を入れ、新たな特産品の開発、普及に進めています。この農地や里山といった町の魅力を維持するためには、どのような取組みが必要でしょうか。

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
新たな企業の誘致・既存企業への支援	◎二宮オーガニックショップを。 ◎小中一貫校整備後の施設、設備の活用。 ◎空き家、空き店舗を活用した町なか企業の誘致とプロデューサーの育成。 ○駅前周辺の交通を整理した上で、コンビニやチェーンコーヒーショップ等を誘致し、人が集まりやすい環境を整備。 ○町全体がシェアオフィスとして使えるような仕組みをつくり、会社を誘致する。(Wi-Fi 環境整備) ○シャッター店舗が多く、閑散とした印象である。数年前にあった開業支援費(200万円補助)のような制度を使って開店してもらうことはできないか。 ○SOHO住宅への補助(空き家活用)
就業環境の拡大	◎雇用機会の拡大、働き場の創設。(高校生、主婦) ○高齢者の働く場を増やす。(70歳以上の人だけが働ける事業所など) ○子連れでも働くことのできる環境をつくる。
商店街活性化の仕組み	◎官民コラボによる新生活様式と新規地域事業の創生。 ◎店舗サイドは、コミュニケーションをデザインし続ける覚悟。お客サイドは町を愛する気持ちを持ち続ける。 ◎大小さまざまな地域循環の輪をつくる。シェアリングエコノミー「地産地消」。 ◎町の中でお金が循環する仕組みが必要。内需拡大(町なか消費) ◎一店逸品(匠の味・技)による魅力の向上。 ○地域通貨を活用し、地域の人材発掘に活用。町内のみで使えるポイント(通貨)をより発展させる。 ○町内のお店が運用するSNSは毎日更新する。(フェイスブック、インスタ、ツイッターなど)
町独自の買い物サービスの確立	◎町間店舗、デリバリーサービスの実施(子育て世代、高齢者支援) ○町内の商店で協力しあい、店舗に行かずとも買い物ができる仕組みをつくる。(ex.ネットを活用し、町内に点在する商店が一つの大きなお店として機能する仕組みなど) ○百合が丘や富士見が丘、緑が丘の高低差のある地域の方は買い物が辛いという話を聞く。町の商店で仕入れ、それを巡回販売車で販売するようなモデルをつくる。 ○地域づくりの会社に介入してもらい、今後を検討する。

吾妻山の森林整備と活用	<ul style="list-style-type: none"> ○山に食べ物が無くなると、住宅地にサルやイノシシが出現する。森林を整備し、地面に光を当てることで、山を生き返らせる。 ◎観光ではなく、アクティビティの場としての活用。 ◎暮らし方と畑・里山再生、維持のカップリング。
特産品の開発	<ul style="list-style-type: none"> ◎流通・消費までを考えた、トータル的なファームプロジェクトの実現。(学生の生産物も加える) ◎特産品栽培への支援(ex.農地の貸出し) ○オリーブ栽培を主産業とするまでには、コストと時間を要する。また、オリーブの木は堅く、民芸品の製作等は難しい。 ○それに対し、落花生は二宮で150年の歴史があり、栽培も容易で、収益性も高い。加工に手間はかかるが、産業としては大きな強みである。
環境教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◎規制と支援の両立。ルールづくりとサポートをセットしたまちづくり。 ◎次世代への情報発信。 ◎体験型農業の起業。NPO 等の協力による、幅広い世代への環境・農業体験プログラムの提供。 ○小中学生の授業の一環、または部活を通して、定期的なゴミ拾い活動を行う。(次世代を担う子どもたちに、小さい頃から意識付けを行うことは重要) ○農地や里山の整備、海のゴミ拾いなどを手伝った際に町内で使えるポイント(通貨)がもらえる。
低炭素環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ガソリン車の通行を制限し、電気自動車や水素自動車のみを許可する。 ○主要な道路は全て地下道とする。 ○無料の電動自転車の設置。 ○人力車、リヤカー等を活用した人力タクシーによる送迎。
町の魅力を知る・知らせる取組み	<ul style="list-style-type: none"> ◎ハッシュタグを活用した情報発信。(個人ではなく、みんなで協力して情報を発信) ◎町のあちこちでつまみ食い。「エディブルタウンにのみや」 ◎町民向けのプロトタイピング。町民が関りを持てる仕組み。 ◎条例の整備と情報の公開。 ○小学校や中学校から町のことを学ぶ機会をつくる。 ○年齢の節目ごとに、二宮を知る冊子を送る。 ○町内を巡るバスツアーを定期的に行う。

《テーマ》 町の目指す姿

→本町の「強み」や「弱み」を踏まえ、10年後の町の目指す姿をお考えください。

《強み》

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ○他県からも多くの人が集まる吾妻山は大きな宝物である。 ○豊かな自然と温暖な気候。 ○少しずつ新しいことを取り入れながら、自然を維持している環境づくりに取り組む姿勢。
安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> ○犯罪が少ない。 ○穏やか、治安がよい。
交通アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ○コンパクトにまとまった町であり、町内の移動が楽。 ○都心へのアクセスも良く、小さな町にしてはスーパーも充実しているなど、住みやすい町。
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつがある町。 ○優しい人が多く、人のつながりが強い。 ○新しい人を受入れる優しさが、他の地域より強い。(移住者の声)

《弱み》

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
買い物	<ul style="list-style-type: none"> ○芸術や文化に携わる人が多い中、図書館以外の本屋がほぼない。 ○なんとなく立ち寄りがたい店の雰囲気。 ○買い物する場所が駅周辺に集中している。
交通アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ○町内を移動するための公共交通が乏しい。
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ○人のつながりが強い場合、若い人が自由に動きづらい状況も見られる。 ○活動している人がばらばらで、全体的なまとまりが希薄。

《町の将来像》

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
さまざまな世代の暮らしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ◎コミュニティで支える、子どもたちにやさしく、子育て世代が住みやすい町 ◎人にやさしい町 ◎どの世代でも過ごしやすい公園(居場所)づくり →現在は世代ごとに過ごせる場が分かれている。特に小中学生がゆっくり過ごす場所がなく、世代の偏りがある。ぜひ、乳児から高齢者まで、ゆっくり過ごせる環境づくりをお願いしたい。
コンパクトな町の利点を活かす	<ul style="list-style-type: none"> ◎しなやかな町 ◎弱小自治体の皮をかぶったアジャイル(=柔軟で迅速)な町 ◎自分たちで考え、決めることのできる自分たちの町 ◎コンパクトな集落
豊かな将来の実感	<ul style="list-style-type: none"> ◎幸福度の高い町 ◎自然と調和した個人の豊かさを実感できる町

	<ul style="list-style-type: none"> ○“未来は明るい”と信じさせてもらえる町 ○都心とは異なる豊かさを育む町
安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> ◎安全・安心な町 ○安心、安全に暮らせるみんなにやさしい町
自然を活かした暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ◎山水郷@にのみや ◎海・川・丘陵を回遊できる遊学文化を感じる町 ○食べ物、教育、医療、介護、エネルギーが自給自足できる町 ○里山、海の価値を最大限に生かした地産地消の循環モデルを確立し、町民が健康で幸せに暮らせる町へ <ul style="list-style-type: none"> →農業、漁業、林業のワークシェアリング(ボランティアなど)の体制をつくることで、産業の活性化、就業機会が増加する可能性がある。

～第6次二宮町総合計画策定に向けて～

10年後への町トーク（ワークショップ）

二宮町の「現在」と「未来」を考える

【第2回記録】

日時：令和3年10月24日（日）14:00～16:30

テーマ：【環境・防災】【土地利用・都市基盤】【自治体経営】

《テーマ》 環境・防災

【課題①】 多発する自然災害に強いまちとするために

→大規模な地震や豪雨による自然災害が各地で発生しており、安全・安心への意識がますます高くなっています。このような未曾有の自然災害においても、被害を最小限に食い止め、町民の生命と暮らしを守るためには、どのような取組みが重要でしょうか。

【課題②】 温暖化防止対策をはじめとした環境保全のために

→地球規模での環境保全意識の高まりにより、低炭素社会の形成や生物多様性の保全、循環型社会の実現といった取組みが重要視されています。住みよい地球環境を次世代につなぐため、町レベルでどのような取組みが必要でしょうか。

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
町の成り立ちや自然の大切さの理解	<ul style="list-style-type: none"> ○二宮の大地の成り立ち、歴史、生活文化を総合的に理解した上での里山保全。 ◎物を大切に暮らすについて学ぶ機会をつくる。(ex.管理ボランティアへの参加、WSによる教育活動、物の循環の仕組みの見える化) ◎失われないことが前提だった自然が、失われることが前提になったことを知る。
減災に向けた取組み	<ul style="list-style-type: none"> ◎ヤブ化、ナラ枯れ等が進む町の山を根本から元気にすることで、観光地の側面を活かしつつ、自然災害の抑制につなげる。 ◎中途半端な形ではなく、地産地消をより一層拡充する。(ex.菜の花山、オリーブ山、玉ねぎ山、落花生山、しいたけ山、ソーラー山) <ul style="list-style-type: none"> →山の管理の担い手不足が自然災害につながる危険性があるため、山を含め休耕田等の積極的な活用を行う。 →農業試験場跡の果樹園や小学校周辺の農地等で展開することで、学習の場としても効果的。
防災・安全への対応強化	<ul style="list-style-type: none"> ◎町の防災安全と開発のバランスを図る。 ○地域防災の充実とネットワークを強化する。 ◎災害予防・発生前・発生後の生命の安全と衣食住確保に向けた仕組みを強化する。(ex.消防団の経験) ◎長期の被災生活に備える。 <ul style="list-style-type: none"> →自給自足率の向上、水源・エネルギーの確保
温暖化防止に向けた指標化と誘導	<ul style="list-style-type: none"> ◎地球温暖化を防ぐ。(気候変動、地殻変動への影響) ○温暖化防止に向けた指標化を行う。 ○環境保全団体と地権者との間の調整を行う専門コーディネーターの育成。 ◎再生可能エネルギー利用の義務化。 ◎カーボンニュートラル(脱炭素社会)に向けた取組みの強化 <ul style="list-style-type: none"> →CO2削減を強化した自動車、住宅、家電等への補助金導入
環境に良いものを推奨する仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ○環境に良い商品を安く手に入れる仕組みをつくる。 <ul style="list-style-type: none"> →環境に悪いものへの町独自の課税制度など ○自家用車を使わなくても良い仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> →循環バスや乗り合いバスの運行、自転車が走りやすい道路環境の整備
リサイクルの仕組みの強化	<ul style="list-style-type: none"> ○ごみを活用できる仕組みを考える。(ex.リサイクルセンター)

《テーマ》 土地利用・都市基盤

【課題①】 暮らしやすさに直結する安定した住環境を保つために

→本町は JR 東海道線の二宮駅のほか、国道、県道を中心としたバス路線や高速道路などがあり、交通環境が充実しています。今後の高齢化を見据え、暮らしやすさに直結する道路や橋りょう、公共交通といった住環境を維持するため、どのような取組みや考え方が必要でしょうか。

【課題②】 生活の質を向上させる都市基盤施設を再編、維持していくために

→本町はこの小さな町規模にしては、地域集会施設などの公共施設が多く点在しています。しかし、その多くが老朽化しており、今後の人口減少を踏まえると、すべてを改修することは財政的にも困難と判断し、二宮町公共施設再配置・町有地有効活用実施計画を策定しています。今後、都市基盤施設を再編しつつ、適正に維持していくために、どのような取組みや考え方が必要でしょうか。

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
乱開発の抑制と既存施設の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ◎乱開発を抑え、現有の施設(未利用公共施設、空き家等)を有効に活用する。 ◎開発よりも環境保護や里山の美しい景観を優先する。 →ソーラーパネルの設置は既存の建物に限定して設置。 ◎二宮町は人口に対する公共施設の数が多いため、分不相応な施設を廃止し、重要な施設を維持する。 ◎3つの小学校へ機能を集約する。 →高齢者施設等との共用 ◎施設を循環するコミュニティバスによる機能の向上を図る。 →コミュニティバスは人だけでなく、モノを運ぶことで、買い物弱者へも対応
安全に通行できる道路の整備	<ul style="list-style-type: none"> ◎歩道や自転車道を整備。(バリアフリー化) ○安全な生活道路や自転車道路の整備とモデルコースの紹介。 ◎交通網の再構築を行う。 →路面電車の導入、電気自動車・自転車のシェアによる環境面・安全面での向上
バス利用者向上のためのサービス	<ul style="list-style-type: none"> ○交通環境は整っているが、使いにくさがあるため、バスの乗り降りの手伝いや荷物を運ぶ等のサービスがあれば、もっとバスに乗る人が増えるのではないか。 ○公共施設をネットワークするバスやタクシーのルート設定。
町の再編ビジョンに合わせた整備	<ul style="list-style-type: none"> ○町全体の再編ビジョンに合わせた地区制度の見直しと、それに基づく地区拠点の整備とネットワーク化
町の自然的特徴のアピール	<ul style="list-style-type: none"> ◎二宮の地形や気候をアピールし、知名度をアップする。(ex.「健康に良い町」「風は吹くけど、陽はたまる」)

《テーマ》 自治体経営

【課題①】 町民と地域、行政が連携してまちづくりを進めていくために

→当町では、人口減少・少子高齢化・町民ニーズの多様化などが進展する中、町民一人ひとりの意見をより行政運営に反映させるため、行政だけでなく町民や地域と連携してまちづくりを進めることとしています。3者がより連携してまちづくりを進めていくため、どのような取組みが必要でしょうか。

【課題②】 日々の安全や生活の幅を広げるコミュニティを強化していくために

→生活の基盤となる地域コミュニティは、災害時だけでなく、日常の安全・安心や相互扶助機能も担っています。また、幅広い町民活動団体の活動は、趣味や健康など生きがいや生活の幅を広げる魅力を持っています。このようなコミュニティの活動を維持・充実させていくため、どのような取組みが必要でしょうか。

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
地域コミュニティ形成に向けたプラットフォームの整備	<ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな団体の活動を活かすためにも、これらをつなぐ組織が必要。 ◎庁内に(仮称)情報部職員課・町民課の創設。 <ul style="list-style-type: none"> →デジタル化への対応、インターネットを活用したアンケートの実施 →町の情報の共有化 →町民同志のコミュニティの手助け ○自治会、子ども会、老人会など、同じような内容を同じようなメンバーで行っているような気がする。一度、全ての会議団体を見直すことも必要。 ◎町と町民が協働し、さまざまな活動を盛り上げる。(住民活動の育成・支援) ○職員のワークショップへの派遣研修によるコーディネート力や実践力の育成。 ◎町民を中心に自立した活動の推進。 ○町民活動団体の紹介や仲介を行う場の創設(シーズとニーズのマッチング)とアドバイザー派遣。
地域資源を媒体にしたまちづくり活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◎市民農園を増やし、遊休地を活用する。 <ul style="list-style-type: none"> →畑は最高のコミュニティ形成の場であり、自給率をアップすることで災害にも強い町をアピール。 ◎失われていく自然を住民と連携して保全する。 <ul style="list-style-type: none"> →継続していくための仕組みづくりも重要(無償ボランティアではない) ◎住民とともに住環境を改善し、次世代に引き継ぐ。

《テーマ》 町の目指す姿

→本町の「強み」や「弱み」を踏まえ、10年後の町の目指す姿をお考えください。

《強み》

項 目	意 見(◎:WS参加者/○:意見書)
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ○温暖で災害の少ない町 ◎山があり、川があり、海がある ○自然が豊かで、古くからの歴史や生活文化、季節感の保持 ○広がる空 ○4つのプレートがぶつかってできた世界でもまれな場所
高いマンパワー	<ul style="list-style-type: none"> ○高い住民力(町の課題解決に向けた積極的な取り組み) ◎活発な町民の取り組み ◎パワフルな移住者と元気な高齢者 ◎高齢者比率の増加
コンパクトなスケール感	<ul style="list-style-type: none"> ○人口も面積も小さい町 ◎駅もあり、都会から近い

《弱み》

項 目	意 見(◎:WS参加者/○:意見書)
自覚・アピール力不足	<ul style="list-style-type: none"> ○町の魅力を知らない ◎何もない風土のすばらしさを自覚していない ○アピールが下手 ◎活動している人たちを結び、つなぐことができていない ○行政経営
町の魅力不足・魅力の減衰	<ul style="list-style-type: none"> ◎自然(里山)の荒廃 ◎歴史遺産が少ない ◎温泉がない ◎商店街がシャッター通りとなってきた

《町の将来像》

項 目	意 見(◎:WS参加者/○:意見書)
自然を活かした暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ○海、川、里山を回遊でき、遊学文化を感じる小さな町にのみや ◎山水郷@にのみや ◎二宮は暖気としらすと浮かぶ月
マンパワーを活かした共助の町	<ul style="list-style-type: none"> ○災害や困ったことがあるときに、お互いに「助けて」と言い合える町 ◎趣味やボランティアが盛んで、子どもからお年寄りまでが交流している町 →町の地域施設(児童館、コミュニティセンター等)で「児童館まつり」を年1回開催し、地域の人に活動をPRすることで、地域の人が活動するきっかけをつくるとともに、活動団体間の交流を活発にする。 ◎地元住民と若き移住者たちが手を取り合って、里山での暮らしを再生させたモデル地区(パワフルな移住者と元気な高齢者) ◎町民も行政も覚悟する

新たなチャレンジ	◎新・昭和40(1965)年をつくる →人口は昭和40年当時まで減少しても、情報等技術の向上、町民ニーズの変化による、新しい時代をつくることが重要。
----------	---

～第6次二宮町総合計画策定に向けて～

10年後への町トーク（ワークショップ）

二宮町の「現在」と「未来」を考える

【第3回記録】

日時：令和3年11月13日（土）9:30～12:00

テーマ：【福祉・健康・保健】【生涯学習・スポーツ、歴史・文化】

《テーマ》 福祉・健康・保健

【課題①】 地域で助け、支え合いができる共助のまちづくりのために

→誰もが身近な地域で安心し、お互いの多様性を尊重しながら、いきいきと暮らし続けられる地域社会とするため、福祉ニーズの多様化に対応していく必要があります。そのため、町民や地域、民間事業者等と町が連携して行っていくべき取組みはどのようなことでしょうか。

【課題②】 誰もがいくつになっても健康に生活ができる町を目指すために

→当町では、子どもから高齢者までの健康づくりとして、未病センターにのみやを開設しているほか、介護予防事業や母子保健事業等でも健康づくりの視点を取り入れています。誰もがいくつになっても健康に生活できるよう、町としてどのような取組みが必要でしょうか。

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
住民の意識づけと環境づくり	<p>◎長期的には「オープンな心」と「善良&タフな価値観」を持った人を育てる。</p> <p>◎短期的には、衝撃的な体験ワークショップ等を通して、住民の価値観を変えることが必要か。</p> <p>◎制度や決まり事から考えるのではなく、シンプルに困っている人を助けるとい意識を持つとともに、解決できないかもということを前提に動ける関係性ができるが良い。また一方で、「助けて」「困っている」と言いやすい環境をつくることも大切。</p> <p>◎誰もが役割(助ける、助けてもらう)をもった関係性ができるが良い。</p>
気軽に相談できる場づくり	<p>◎誰もが参加しやすい、様々な世代の交流の場となる「通いの場」をつくる。</p> <p>○開催場所まで来られない方のために、生活に身近な場所で運動やゲーム、会話等ができる「小さな(5~6人程度)集まりの場」をつくり、生活に関する話題を提供する。</p> <p>→現在、「通いの場」へ来る人が高齢者主体になっているため、再度、周知が必要。</p> <p>→個人宅等をお借りして「ミニ通いの場」を行ったらどうか。体操DVDを作成し、それに取り組んでもらう。(従来の通いの場とあわせ、大勢の方の健康を増進させることが可能)</p> <p>→高齢者が集まっている場所に子どもやその親と一緒に体操やゲームを行うことで、お年寄りはこういう感じと分かってもらい、お互い困っている高齢者を見たら、助けてあげる、声をかけてあげる。</p> <p>→高齢者も、子どもたちの登・下校を見守って声をかける雰囲気を作ることで、健康でいられると思う。</p> <p>○年代の違う団体やグループの融合。(介護施設、デイケア、通いの場、老人会、託児所、保育所、学童保育、こども会、部活動 など)</p> <p>→同じ場所で、同じ時間を一緒に過ごす。(できれば日常的に。もし将来、空き校舎が出来た時は場所としては好ましい。)例えば、手遊び、歌、工作、畑仕事、運動、勉強等、季節の行事や各グループの発表会等も一緒に過ごすことで、子ども達の保護者も加わり、様々な年代の方たちが交流できる。世代を超えて、教え合ったり、お世話をしたり、友達になったり、支え合ったり、助け合ったりと刺激し合い、心身ともに健康に過ごせるのではないかと考える。</p>

<p>課題の把握と必要情報の提供</p>	<p>◎福祉に限らず、日常のどんなことでも相談できる窓口をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24時間365日対応で課題を把握し、それに対するアイデアや具体的な動きをつないでいける場とする。 ・身体健康だけでなく、心の健康を気遣えるような場。 ・その窓口をつくるためには、今ある資源(施設)の整理が必要。 ・その窓口でさまざまな要望をマッチングできる。 <p>◎情報提供の方法を工夫する。(ex.プッシュ通知、情報弱者を拾い上げる仕組みづくり、新しい井戸端会議)</p> <p>◎情報を得るためには、提供されるのを待つのではなく、自ら動くことが大切。何でも行政任せではダメ。何かがある場所は匂いでわかる町の規模でもある。</p>
<p>身近な生活エリアでの共助</p>	<p>○防災コミュニティセンターなど地域拠点の運営の見直しと地域の見守り人を配置する。</p> <p>○長屋文化の復活、小さなおせっかい、隣人関係、井戸端会議は、オレオレ詐欺や不審電話などの手の巧妙な手口による事件や事故の防止につながる。(気配り、目配り)</p> <p>○私の住んでいる地区(梅沢)は共助出来ていると感じている。</p> <p>○個人情報保護法の縛りにより必要な情報が得られにくいためか、近所づきあいすら難しい時がある。もっとオープンな世の中であってほしい。また、助けてと伝えられる勇気も必要。</p>
<p>地域福祉の基本としての地区社協の位置づけ</p>	<p>○地域福祉の根底部分の役割を担う役割として、地区社協を町社協の下部組織ではなく、各自治会や町内会の組織の一部とする。</p> <p>→地区社協や通いの場の認知度が若い世代ほど低い。(地域福祉の要である地区社協や通いの場が、高齢者世代に特化したものの様に捉えられていることに違和感あり。)</p> <p>→福祉政策は高齢者、児童、障害者、貧困世帯など対象者別に考えられているが、その全てを網羅するのが地域福祉であり、福祉ニーズの多様化に対応するためには地域の根っことも言うべき自治会単位での活動が重要。</p> <p>→全ての住民が地域福祉の対象という意識と、全世代参加型の地域組織が必要。自治会等は若い世代も組長等の役割があり、子ども会も参加するため、地域福祉の周知、担い手にもつながる。</p>
<p>地域の実情に合わせた柔軟な対応</p>	<p>◎本来、国がやるべきことを自治体に押し付けている状況だが、この状況をみんなで協力してしのいでいく必要あり。そのため予算を確保し、担当課を充足することで、「みんなで暮らしていくまちづくり」態勢を整える必要がある。</p> <p>→二宮町には、実際に動いている人も多く、このような活動を知ってもらい、広げていくことが大切である。</p> <p>◎暮らしを充足し、生き方に満足して死んでいけるような環境と共通目標をもって実現していく。</p> <p>○国の制度と現場の実情にズレがある。65歳問題や直Bアセスメント問題(就労継続B型の利用に係る、就労移行支援事業所での就労アセスメント)など、町は現場の実情をしっかりと把握し、各事業所や学校等と連携した柔軟な対応が必要。</p>

	<p>○福祉サービスの制度はあっても、事業所の人材不足等の理由から利用できないものも多い。市町村間でも格差があり、二宮に住まず、サービスが充実した市町村に転出する人もいる。大変だが、せめて平塚や小田原の基準に合わせてもらいたい。</p>
百合が丘での課題が町の課題	<p>◎現在の百合が丘の状況が今後、二宮町全体の課題となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区委員が高齢のため、地区の行事に参加できない。 ・転出や転入を地区委員が把握できない。→転入者とのコミュニケーション強化 ・高齢・1人住まいのため買い物、自炊ができない。→巡回販売(御用聞き)、町の飲食店や給食センターと連携した弁当の出前 ・空き家が増加している。→移住体験、町外在住町職員の寮 ・緑が少ない。→みかんの木を植え、小学生による収穫体験 ・通学時の安全員が不足する。→新聞配達員の有償参加、バス通学 ・子どもの数が減少し、不登校の要因にもなっている。→複数学年複式学級方式 ・公共施設の駐車場が不足している。→老人憩いの家、保育園、公会堂等を一色小学校に集約し、グラウンドの一部を駐車場化 ・雨の日の遊び場がない。→小学校教室、体育館の一部開放
保健センター(未病センター)の活用	<p>○「保健センターってどこ？」と聞かれることが多い。未病センターという良い施設もあるのに残念。加えて、「遠い」「坂が」との方もあり。</p> <p>→未病センターを効果測定の間としても位置づける。愛知県尾張旭市では、「らくらく筋トレ体操」に取り組み、その効果を歩行速度の向上としてあらわしている。効果を見える化することで、やる気にもつながる。</p> <p>→保健センターに気軽に行けるよう、タクシー代の補助やにのバスの利用ができるとう良い。</p> <p>◎健康とは何かと考えた時、本人や家族の納得感に帰することでもあり、習慣を変えることが大切。</p>
吾妻山を活かした健康づくり	<p>○健康に生活できる町づくりとして、吾妻山をもっと楽しめるような取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吾妻山の登山道に手摺を増やす。(シニアの登山者の増加) ・樹木だけでなく、草花にも銘板があるとさらに親しみやすい。 ・昔の登山道を再整備して多様な楽しみ方が出来るように。 ・旧陸軍の防空壕を観光資源として活用。(道の整備と案内板の設置) <p>○吾妻山公園の乗り合いタクシー(介助者必要)の話題で、値段が高いという声も多く聞かれた。</p>
ウォーキングによる健康づくり	<p>○二宮・中井・秦野を含めたウォーキングマップを作成し、町民に配布する。ウォーキングをしたいと日頃から考えている人でも、行き方や所要時間、その他の情報が分からないために、二の足を踏んでしまう場合もある。情報があれば、自らウォーキングしてみようという気持ちも起こるのでは。</p> <p>◎ウォーキングマップは実際に作られているが、それ自体があまり知られていないのが現状。</p> <p>◎史跡、名所・旧跡、季節情報など、さまざまなルートを設定する。また、店舗情報等も掲載し、携帯とリンクするとより便利である。</p> <p>◎トイレ・ベンチの場所、歩道の有無などの情報があると安心して歩くことができる。</p>

	<p>○散歩したくなる道や休憩場所、立ち寄りたくなる個店や喫茶店の配置した回遊路を整備する。</p> <p>○JOY カードを活用したポイント提供を行う。 →二宮万歩計(60歳以上が1日3,000歩以上歩いたら5ポイント付与、6,000歩以上歩いたら10ポイント付与)</p>
<p>学校施設の整備</p>	<p>○学校のトイレが古く、衛生面・精神面から使用できない子どもが増えている。健康障害にも繋がるため、誰もが使用できる設備を整える必要がある。 →学校を災害時の避難所として活用することを考慮することも重要。</p> <p>○学校備品は、子どもたちの健全な成長のためにも安全なものを整備する必要がある。特にスポーツは、健康を保ち、将来の可能性を開くことに繋がるため、安全かつ時代に即したスポーツルールにも適用できるものが好ましい。</p>

《テーマ》 生涯学習・スポーツ、歴史・文化

【課題①】 魅力的な学習活動やスポーツの機会を提供するために

→人生100年時代を迎え、人生設計の多様化が進む中、「自ら学ぶ」ことを通じて、生きがいを見つけることは、生涯にわたって充実した暮らしを送るうえで欠かせないものとなっています。学習活動やスポーツを通じて、町民一人ひとりが生きがいをもって充実した生活を送れるようにするためには、どのようなことが必要でしょうか。

【課題②】 ふるさと二宮への誇りと愛着を醸成していくために

→小中学生のアンケートにおいて、「町の特徴がない」「町の良いところを町外の人に伝える」という意見が見られました。町民のみなさんが、ふるさと二宮への誇りと愛着を持ち、さまざまな活動を通して、町の活性化に寄与できるようにするためには、どのようなことが必要でしょうか。

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
二宮町らしい学習機 会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◎町内在住の大学教授に小中学生向けの特別事業を開いてもらう。 ◎二宮町の生活文化(近代史)の掘り起こしを行う。それを学べる場所がこの町には残っており、それを知る体験ができる。 ◎二宮の歴史・文化を知る学び(ex.小学生が町の高齢者にインタビューを行い、町のライブラリーとして残す) ◎二宮町立(まちづくり)大学を立ち上げる。(学習保障のない学びの場づくり →魅力の発信、社会資源としての学校の活用) ◎二宮町ならではの学校をつくる。 →子どもも大人も遊べる場所、年代を超えて学びたいことを学べる場所 ◎さまざまな分野に精通した講師を招致する。 →町民アンケートによるニーズの把握や刺激的な情報を提供。二宮に住んでいる人誰もが講師になり得る。 ◎オンラインを活用した学習と手取り足取り対応できる学習スタイルのバランスが必要。 ○町の寺子屋(フリースクール)をつくり、学びたい人が学べる環境、誰もが教師であり、生徒として、年齢、性別関係なしに教え合う環境とする。ボケ防止にもなる。 ○その分野で著名な人を呼んで講演会や学習会を計画することで、多くの町民に興味をもってもらい始めるきっかけづくりを提供する。 ○シルバー人材等にもっと頼って活動してもらうなど、町民活動の場を増やす。 ◎自分が何らかの形で町に関わっていると自覚できることが大事であり、それがつくれる町の規模でもある。 ◎住んでいる人が二宮を知る、二宮町に住んでいる人に知らせる。(声が小さな人にも伝わる工夫) ◎毎年、町の現状と課題を全戸に配布し、対応策を募集する。小中学生にも夏休みの課題として、提出してもらう。 ○二宮の大地の成り立ちや歴史がわかり、様々なワークショップや運動ができる遊学文化拠点としての東京大学果樹園跡地の整備と図書館を充実する。

<p>スポーツ活動への投資の再確認</p>	<p>◎人口が減少し、施設を維持できないような状況となっている中、スポーツ施設に高額な予算を投入する時代ではなくなりつつある。もっと他に投資するところがあるのでは。</p> <p>◎生活に余裕がないのに子どもにスポーツをやらせる、休日のスポーツ遠征に保護者が送迎しなければならないような状況は望ましい姿ではない。子どもたちには、自分の存在を確認し、「生きる力」を学べる場をつくる必要があるのではないか。</p>
<p>スポーツへの関心向上と参加機会の創出</p>	<p>◎プロスポーツを誘致し、それを軸にした町づくりができるが良い。</p> <p>◎情報の伝達手段として、YouTube の活用拡充を図る。 →町の公式チャンネルによる発信。</p> <p>◎吾妻山マラソンを実施する。</p> <p>◎学校のクラブ活動と大人のサークル活動と一緒に活動することで、交流を図る。</p>
<p>町の魅力と生活文化の掘り起こし</p>	<p>◎海、山、小川が身近にある自然が魅力的な町を活かし、四季の自然環境づくりなどを通じて、ホテルやメダカなどの小さな発信ができる。SDGsにも通ずる。</p> <p>◎町の魅力と生活文化の掘り起こしを行い、まち中での見える化を行うとともに、学校教育にも取入れる。</p> <p>◎WEBを活用した地域ブランディングと受信者が必要としている情報を的確に発信することが大事。</p> <p>◎情報発信があまり上手ではないので、他県から移住してきた方々等から良さを発信してもらうなどの工夫が必要。子どもたちの意見にもあるように、ずっと二宮に住んでいると当たり前の景色だったりして、良さが分からないと地元の方からも聞かれる。</p> <p>◎「愛着」は刷り込むものではなく、醸成するもの。学ぶ力と生きる力が養われれば、自然に町への愛着は生まれる。一旦、町外に出てこの町に戻ってくると、町の良さがわかる。</p>

《テーマ》 町の目指す姿

→本町の「強み」や「弱み」を踏まえ、10年後の町の目指す姿をお考えください。

《強み》

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ◎恵まれた自然風土と人がある ◎都市化していない ◎町の畑は山を抱えているため、水やりは少なくよく、ミネラルも豊富 ◎自然があり、人が良い。 ○身近に風光明媚を体感できる町。360度のパノラマと四季の展望。 ○広がる空 ○温暖で災害の少ない町 ○4つのプレートがぶつかりあっている世界でも稀な場所 ○自然豊かで古くからの歴史、生活文化、季節感
高いマンパワー	<ul style="list-style-type: none"> ◎多様な人がいる ◎主体的な人材の割合が高そう ◎人のつながりが強い。(人のつながりが強い分、そのつながりから外れている人は却ってつながりにくい。) ○住民力
コンパクトなスケール感	<ul style="list-style-type: none"> ◎小さな町なので情報が届きやすい。 ○人口も面積も小さいコンパクトな町。 ○人が温かい(閉鎖的だけでも一度受け入れると温かいという意味もある。) ○地域のイベントや行事を通して交流がある。

《弱み》

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
自覚・アピール力不足	<ul style="list-style-type: none"> ◎町民のリソースをうまく使えていない。 ◎情報の発信・受信力が弱い。 ◎町民自身が自分の町を好きでない人も多そう。 ◎自分たちの町の魅力を知らない。 ○町の魅力を知らない ○アピールが下手
選択と集中の欠如	<ul style="list-style-type: none"> ◎大切にすべきものと後回しにすべきものの峻別ができない。 ◎多様な考え方が出され、まとまらない。 ○町の特徴が見えない。町の目指すものが分からない。 ○行政経営 ○新しいものを取り入れるのに時間がかかる。

《町の将来像》

項目	意見(◎:WS参加者/○:意見書)
自然を活かした暮らし	◎自給自足、地産地消—資源(人・モノ)の高循環を →町の人々の知恵(アイデア)を活かし、町の資源を有効活用する。 ◎自然災害に強い、耐性のある町 →これから顕在化する経済や食糧危機をモノともせず、恵まれた自然の中でみんながのほほんと生きることのできる町 ◎オールタナティブな豊かさ(暮らし)も追求できる町 ○海、川、里山を回遊でき、遊学文化を感じる小さな町にのみや
マンパワーを活かした共助の町	◎軽やか、しなやか、アジャイル、オープンガバメント ・失敗を恐れない行政 ・主体性のある人が多い町 ・さまざまな知恵の活用 ◎どんな人であっても受け入れあえる気持ちのある人が育つ町 ○安全、安心で住みやすい町、住みたい町 ○コンパクトな町ならではの良さを活かし、できることからできる人たちが集まって始める。(例えば、有償ボランティアや公募などで業務に責任をもってもらうなど。)